

城岳こども園自己評価

自己評価 4 充実している 3 おおむね充実している 2 あまり充実していない 1 充実していない

	具体的取組	評価	反省評価
め、良さを可能性を認め、園一人一人が大切さ	○一人一人を大切に学級経営の充実が図れた。	3.4	一人一人の個性を大切に、思いや考えに寄り添い、尊重する学級経営を心掛けた。毎月こどもの様子を記録し子どもの実態把握に努め、少しの変化にも対応できるようにしている。支援児、「気になる子」への対応は、この子に何が必要かを考え細かな支援ができるようにしている。
	○教師や友達と関わり、認め合う学級経営が図れた。	3.6	沢山の友達と関わり自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け止めながら遊びを展開させる楽しさを知る中で、友達のよさに気づけるようにした。子供同士での「ふわふわ言葉」を意識し、言われて嬉しい言葉があふれるようにし、保育教諭は常に肯定的な言葉かけを心掛けた。
2 「確かな学力」の向上	○遊びを通して主体的な活動を促す環境構成や援助の工夫をした。	3.5	子ども達が「やってみよう」「遊びたい」と思える内容の充実を図り、自ら遊びを選んで楽しめるようコーナー作りの工夫を行った。行事前は、練習時間が多くなってしまいうまくないような工夫に努める。
	○言葉による伝え合いや文字に関する興味関心を育む援助の工夫ができた。	3	発表の場を多く設けることで、聞いてもらう楽しさや、伝える喜びを感じられるような工夫を行った。様々な表記をひらがなで行うことで、文字への関心が高まるようにし、自然と文字に触れられるよう文字環境を整えた。4歳児クラスは、写真や絵も取り入れながら、発達に応じたひらがな表記に配慮した。
	○身近な人に親しみ、関わりを深め愛情や信頼関係を育む援助の工夫ができた。	3.3	身近なクラス担任と一緒に遊びこむことで信頼関係を深め、他クラスの教諭へと関りを広げられるようにしていった。地域老人ホーム訪問や、医療機関訪問等を通して、地域を知り自ら挨拶する心地よさや感謝の気持ちが持てるような取り組みの工夫を行った。 1月にインフルエンザ2月にコロナが流行り交流や関りが無くなったが担任と一緒に遊びこむことで信頼関係を深め他のクラスの教諭への関りを広げられるようにしていった。
	○健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくような援助の工夫ができた。	3.3	季節の変わり目などに手洗い・うがいの仕方を丁寧に指導することを繰り返し行い感染症予防への意識を高めていった。長期休みの前には、安全指導を行い家庭と連携を取り安全行動が身につくよう努めた。遊びに制限が出ないような、けが防止のルールや約束決めが課題。 インフルエンザやコロナ禍の為、マスク着用を促し習慣づけることが出来た。
3 基本的な生活習慣の形成	○「食べて、動いて、よく寝よう」の取組の工夫をした。	2.9	毎朝のラジオ体操、マラソン活動が体力向上に繋がっている。静と動のバランスを考えた活動内容の工夫を行った。長期休みに入る子には頑張りシールでの取り組みの工夫を行い、「早寝早起き朝ごはん」が定着していけるよう努めた。
	○家庭と連携し、望ましい生活リズムの確立を図った。	3.1	年2回の生活習慣アンケート等を活用しながら、保護者への声かけを行う。体調の変化や、生活リズムの改善が必要な場合、その都度家庭と情報交換を行い1人1人にあった改善を図っていった。遅刻の改善が見られない家庭指導が課題。
	○規範意識やマナーを身につける援助の工夫ができた。	3.3	話を聞く時の態度や、食事のマナー等その都度伝えると同時に、皆で話し合う場を設けることで、子ども自身で気づき、考えていけるようにした。小学校同様「さん」づけ呼称や「朝の挨拶運動」に取り組み規範意識を高めている。
	○「食」への関心を高める保育の工夫を図った。	3.6	食育パネルや栄養の歌を活用し、食べ物の働きを知ると共に、提供される給食の献立を毎食読み合わせることで、食への関心を高めた。また季節に合わせた野菜の種植えから収穫までを行い、体験を通じた取り組みを行った。
4 学力向上マネジメント	○計画的な園内研修を実施し、保育に生かすことが出来た。	2.9	月に1度園内研修を実施し、現状報告や対応等を話し合いや意見交換を行う。またそれぞれが受講した研修の報告を受け、日々の保育実践や見直しに活かしている。保育内容の充実を深められるような園内研修を取り入れて、全職員のスキルアップにつなげていくことが課題。
	○PDCAサイクルを活用し、日々の保育改善と安全管理を行った。	3.1	毎週の週案ミーティングの際、週の振り返りを行い反省評価をすることで、よりよい保育へと繋げていけるよう努めている。月に1度の安全チェックや、ヒヤリハットを活用しその都度情報共有を行い、安心安全で過ごせるようにしている。
	○保育記録をもとに、保育カンファレンスを行う等、幼児理解を深めることができた。	2.8	気になることはその都度話し合いの場を設け、情報を共有し、子ども1人1人の理解を深めた。個別の記録を基に個人にあった支援や援助を工夫し職員全体で、一貫性をもって教育・保育を行えるよう努める。全職員の周知徹底が課題。
	○保育者同士による保育参観を行い、保育の質の向上が図られた。	1.9	保育者同士の参観の時間確保ができなかったが、環境構成の工夫や、互いのクラスを見聞きし、それぞれの良さを取り入れるように努めた。保育の質向上の為に年数回保育者同士の参観ができる時間を確保するよう努める。
総合評価	14項目の平均：2.9	反省評価	今年度、第三者評価を受審したことで、1つ1つの改善を図り、園全体の質の向上に繋がった。保護者アンケートの結果を踏まえ、よりよい教育・保育が行えるよう改善に努める。園内研修や、保育者同士による保育参観が十分にできなかったので、教育・保育内容を深めていけるような園内研修の充実を図り職員全体でのスキルアップを目指す。職員間の情報共有を強化し、一貫性を持った教育・保育が行えるようにする。PECAサイクルを活用し、子どもたちが主体的で対話的な深い学びへとつながるよう教育・保育内容の工夫に努めていく。

平成30年4月から那覇市長より、公立幼稚園から公私連携那覇市認定こども園、城岳こども園として引継ぎ、2年目を大きな事故やけがもなく無事終えることが出来ました。職員も2年目を迎えこども園の流れや教育時間・保育時間の子どもの達との関りも熟知し、小学校との連携なども活発になり、特に5年生と年長児の関りが深くなり5年生の学年主任の先生がいろいろとアイデアを出して下さり新しい試みで祭りの計画を立てていたのですが、コロナの影響で流れてしまい、恒例の小学校の給食体験や1年生との交流など全てなくなってしまったのはとても残念です。又、職員の研修も無くなり、コロナの収束を願うばかりです。

職員による園の自己評価も前年度よりほぼ全項目で評価が上がっており、これからも、職員一同、研修を積んでいき擁護の充実とともに、教育的な配慮、子どもの主体性の促しについてなど教育保育の向上を図り園の教育方針でもある「生きる力の基礎」を子ども達一人一人に育つ様、心に寄り添いながら教育保育を行っていきます。これからも、那覇市こどもみらい部の指導を仰ぎ監査班の指摘事項をクリアしながら園の目標とした関わりを心がけ隣接する小学校との滑らかな接続、保幼こ小連携の取り組みを継続し強化して行きます。

これからも、行政、城岳小学校、地域、ポプラ福祉会と連携を取りながら「全ての子どもの最善の利益」を一番に考えて行きたいと思っております。最後に、職員が出した自己評価は前年に続き辛めの採点だと思っておりますが、職員が目指す教育保育が高い（のびしろがある）という結果であると受け止め、これからも謙虚に奢ることなく地道に教育保育に全職員で取り込んで参ります。